

2010

SUSTAINABILITY REPORT

社会・環境報告書





雪肌精 Save the Blue プロジェクトが、沖縄のサンゴ礁を守る

# あなたが美しくなると、 地球も美しくなる

地球の温暖化が世界的に大きな問題となっています。これまでコーセーは、地球環境を守るため、ゼロエミッションや、容器の樹脂量削減といった、さまざまな努力を続けてきました。今回、私たちは環境問題への取り組みを、さらにもう一歩すすめるため、「Save the Blue プロジェクト」を開始しました。このプロジェクトは、雪肌精の売り上げの一部で、サンゴの移植を支援し、沖縄の海に「サンゴの森」を広げていくというものです。

「雪肌精」は、和漢植物エキスの自然な恵みで透明感のある肌に導くスキンケアブランドで、1985年に登場しました。25年間のご愛顧に感謝するため、瑠璃色のボトルから連想される、青い海のサンゴを守るプロジェクトを実施しました。

サンゴ礁は海の面積のわずか0.2%しかありませんが、複雑な構造が生物に棲みかを提供し、さらにその生物を餌にする魚が集まることから、多様な海洋生物の命を支えています。サンゴ礁は、動物であるサンゴの営みによって作り上げられます。サンゴは石のような無機物に見えますが、成長の過程で海中の二酸化炭素で石灰質の骨格をつくるだけでなく、共生している藻類の光合成によって二酸化炭素を吸収し、酸素を排出します。そのため、サンゴ礁は「海の熱帯雨林」と呼ばれます。しかしサンゴは透明度が高く、綺麗な海でしか育ちません。地球温暖化や海洋汚染といった環境の変化によって、世界中のサンゴは深刻な危機にさらされています。



沖縄のサンゴ礁は、サンゴの種類が多さに加え、そこに棲む魚や貝、エビやカニの種類も多く、世界的にも有数の種の多様性を誇っていますが、世界のサンゴ礁と同じように急速に失われつつあり、10年前の10分の1程度にまで減少したと言われています。

こういった背景から、コーセーでは、森を広げるには植樹をするように大切なサンゴを移植し、沖縄の海にサンゴ礁を広げる活動に着目しました。サンゴの養殖や海中での植え付けには、さまざまな設備や技術が必要です。プロジェクトを確実に進めるため、世界で初めて養殖サンゴの産卵に成功した、金城浩二氏が代表を務める「海の種」の皆さんにパートナーとなっていただきました。このプロジェクトは、対象期間中、雪肌精1本ご購入につき1ボトルの底面積分のサンゴの森を広げるというものです。2009年の植え付け面積は25mプールに換算すると、およそ1面分となりました。2010年には対象商品を増やしたことから、さらに面積が拡大し1.3面分を植え付けする予定です。

このプロジェクトは「あなたが美しくなると、地球も美しくなる」というコンセプトのもとに活動してきました。雪肌精を手にとって下さった皆様の、美しい地球を想う気持ちが集まることで、このプロジェクトは実現しています。コーセーは、これからも女性の美を支えながら、地球の美しさのことも考える企業であり続けます。

Save the Blue



## 海の熱帯雨林といわれる サンゴ礁が危機に瀕している

サンゴ礁は、サンゴの中でも石灰質の大きな構造物をつくる造礁サンゴの営みによってもたらされています。しかし、いま世界に生息する704種の造礁サンゴのうち、実に3分の1に当たる231種が絶滅の危機に瀕しています。これには、地球温暖化による海水温上昇や、水質汚染、海水の酸性化が影響していると言われています。

サンゴ礁は海の全面積のわずか0.2%しかありませんが、その中に海の生き物の4分の1が生息しています。サンゴは海に溶け込んだ二酸化炭素を吸収し、硬い石灰質の骨格を作って成長します。複雑な構造物のサンゴ礁は生物の絶好の棲みかとなり、その生物を求めてさらに多くの生物が集まるのです。また、サンゴは共生している褐虫藻という藻類が光合成をするため多量の酸素を発生します。このような働きから、サンゴ礁は「海の熱帯雨林」と呼ばれています。

## サンゴの植え付けは 一本一本ていねいに手作業で

現在の地球環境に危機感をもち、青い海のサンゴ礁の絶滅をくい止めようという動きが広がりつつあります。コーセーでは、この活動に賛同し、サンゴを養殖し、それを沖縄本島の海に移植する人たちの支援を始めました。別の地域のサンゴでは遺伝子をかく乱する恐れがあることから、移植放流用のサンゴはすべて沖縄本島産を種親としています。コーセーのパートナーである「海の種」は、外敵のない陸上の施設でサンゴを5cmほどに育て、生育環境の良い場所を選定し、一本一本手作業で海中へ植え付けていきます。この植え付けは、潮の流れが速いところで身体を揺られながらの難しい作業なので、技術を持ったダイバーが行ないます。移植後数ヵ月の間はオニヒトデやブダイ、貝類に食べられないようにカゴで保護します。サンゴたちが厳しい自然環境の中で100%育つとは限りませんが、植え付けから2度目の春を迎えると自ら放卵し、次の世代を残してくれるのです。



潮の流れが速い中での植え付け



植え付け一株一株ていねいに



保護のための金属製ケージ

雪肌精 Save the Blue プロジェクトが、沖縄のサンゴ礁を守る

# Save the Blue



## OKINAWAN STREET SUMMITでも サンゴ礁保護の大切さをアピール

「Save the Blue」プロジェクトは、数多くのご販売店にもご協力いただきました。店頭ディスプレイで、サンゴを守る呼びかけを行い、日本全国で「Save the Blue」を広くアピールしました。当社の美容スタッフからも、お客様とサンゴの保護や環境のことについてお話する機会が増えたとの報告がたくさん届いています。

また、「OKINAWAN STREET SUMMIT」は音楽ライブやスポーツを通してサンゴ礁への理解を深めるイベントですが、コーセーも2009年から協賛しています。イベント会場では養殖サンゴ施設を展示して、サンゴ礁の大切さを楽しく学べるスペースを設け、多くの方々の興味を引きました。コーセーはブースを設置し、雪肌精などのサンプルとともに、サンゴ育成への協力を呼びかけるパンフレットを配布しました。「Save the Blue」プロジェクトの詳細はウェブサイト (<http://www.sekkisei.com/jp/>) でご覧いただけます。



茨城県の販売店のディスプレイ



OKINAWAN STREET SUMMIT



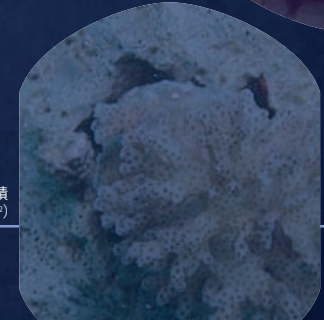
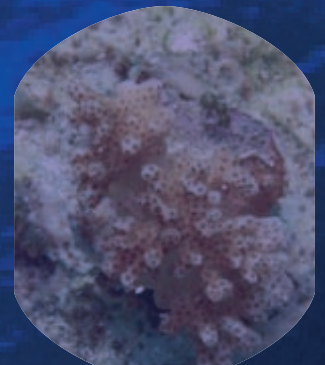
OKINAWAN STREET SUMMIT

## プール2.3面分の面積の サンゴの森が沖縄の海に広がる

「Save the Blue」プロジェクトは、2009年と2010年の7～8月に実施されました。2009年は9月にサンゴの植え付け作業が行われ、25mプール1面分に相当する約516m<sup>2</sup>のサンゴの森を広げることができました。その後の状態も良く、今年の7月には大きいもので16cm、両手のひらほどにまで育ちました。2010年は対象商品を広げたため、およそ1.3面分の面積のサンゴの森が拡大する予定です。

## 養殖・植え付けをする金城浩二氏のメッセージ

「貴重なサンゴ礁を守り育てることは、沖縄という限られた地域だけの問題ではなく、海全体の環境を守ることにつながっていきます。できるだけ多くの皆さんに、この活動の意義や海への想いが伝わって欲しい」 \*有限会社 海の種 Webサイト (<http://www.seaseed.com/>) もご覧ください。



雪肌精1個分の底面積  
(約20cm<sup>2</sup>)